

公開講演会（シンポジウム）を開催して

宮城学院女子大学人文社会科学研究所所長 姚 国 利

今年度の公開講演会は2016年11月5日に仙台市青年文化センターにて開催されました。今回の公開講演会は予想を上回り100人を超える方々にご来場いただき、大盛会となりました。

11月の仙台は街路樹の落葉が始まり、寂しい季節へと移り変わります。晩秋の寂しさと重ね、今年度の公開講演会のテーマは「満洲の残照——文学、映画、教育の光景」という感傷的な歴史的テーマとさせていただきました。



歴史を振り返って見ると、1931年の満洲事変以降、国策の一つとして多くの農民は銃を持たされ、酷寒の満洲へ送られました。艱難の末、多くの命が失われ、たくさんの孤児が満洲各地に残されました。他方、日露戦争以降、日本は侵略拡大と同時に、満洲の開発にも力を注ぎました。鉄道建設、街づくり、教育機関の開設などを進めた結果、旧満洲は当時アジアにおける屈指の先進地域となりました。今回の公開講演会は文学、映画、教育などの多分野から日本と旧満洲との密接な歴史関係を再確認する、大変意義深いものとなりました。

本学の人文社会科学研究所は地方にある私立女子大学の一部署としてその規模が決して大きいとは言えませんが、地道な研究が展開されてきました。その結果、年に一度の公開講演会には、毎年多くの市民のみなさまの参加をいただき、今年で開催25回目の節目の年となりました。公開講演会のテーマ設定と講師の人選はいつも研究所運営の最大の課題となっています。今回の公開講演会のテーマは、本学日本文学科の伊狩弘教授の提案で決定されたものでした。講演者は伊狩先生の他、本学元教授の宮脇弘幸先生と本学日本文学科の李敬淑准教授にお願いしました。伊狩先生は文学者として以前から文学作品の中に出てくる満洲のことを興味深く考察しておられ、2009年から2010年にかけて、大連において一年間の教育と研究活動をされました。先生はその一年の間、大連に止まることなく、長春、ハルビンなど旧満洲のあらゆるところへ足を運び、歴史の遺跡をはじめ、多くの現地調査をおこないました。その実績を踏まえ文学分野から満洲の風情、人物などにつ

いて大変興味深い講演をしてくださいました。また、今回の公開講演会全体の企画と調整におきましても、伊狩先生から惜しみない、大きな力を貸して頂きました。

李敬淑先生の研究領域は戦前東アジア地域の映画のことであり、今までに戦前および戦時中の映画に関して多くの研究成果を発表してきました。今回の公開講演会では貴重な画像や動画を用いながら満洲映画製作所の活動を中心として、旧満洲の原像を生々しく紹介してくださいました。

宮脇先生のご専門は社会言語学ですが、特にその中の言語政策・言語教育という二つの分野を中心として研究されてきました。先生の研究活動の特徴としては、オリジナルの資料と情報を得るために、フィールドワークを重視し、青春時代から今まで旧満洲に数十回足を運ばれ、聞き取り調査などをされてきました。今回は先生の長年の研究成果および現地調査に基づく臨場感にあふれた講演であり、教育分野から日本と旧満洲との関係を深く分析してくださいました。

満洲大地を疾駆した「アジア号」列車の汽笛は歴史の中に消えてしまいました。極楽浄土と謳歌された満洲国は70年前に既に地図上から抹消されてしまったものです。李香蘭も故人となってしまいました。しかし、満洲の夕日は少しも変わらず、毎日静かに地平線の彼方に沈んでいく。その残照は満洲開拓の苦難と教訓を映し出しています。

今回の公開講演会におきましては3人の講演者の先生方の他、「アジア号」列車を背景にした素晴らしいポスターを作成してくださった本学特任教授の井上研一郎先生のご協力を忘れてはなりません。また、本研究所副手の紺野恵子様は講演会にかかわる煩雑な事務を丁寧に処理してくださいました。ここに記して厚くお礼を申し上げます。

宮城学院女子大学人文社会科学研究所 シンポジウム

満洲の残照

—映画、文学、教育の光景—

「満洲国」の夢の跡をちょっと眺めてみましょう。
私たちの今が見えてくるかもしれませんよ。

李 敬淑 (本学日本文学科准教授/日本文化論)
満洲映画協会(満鉄)の広報宣伝誌『満洲映画』を通して、
複雑多岐にわたる「満洲国」文化の真相を探ってみましょう。

伊狩 弘 (本学日本文学科教授/日本文学)
「ここは祖国の何百里経れて遠き満洲」という歌を
ノスタルジックに口ずさんでみましょう。

宮脇 弘幸 (元本学国際文化学科教授/言語社会学)
満鉄付属地、関東州、「満洲国」には、
理念も方針も異なる中国人対象の教育が存在した。
三者間の異同と実態を検証する。

と き: 2016年 **11月5日(土)**
午後1時~4時(開場12時30分)

と ころ: **日立システムズホール仙台**
3階 エッグホール (仙台市青年文化センター)
02-276-2102 地下鉄南北線「旭ヶ丘」下車、徒歩2分

聴講無料
予約不要

主催 宮城学院女子大学人文社会科学研究所

981-0961 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 Tel. 022-277-6102 e-mail: jinshu@imgu.ac.jp